

研究会を開催



7月11日に開催した第1回研究会では、「垂井町の人口推移・推計」「垂井町の児童生徒数の推移・将来推計」「学校施設の状況」「他市町の(学校の再編など)取組状況」について事務局から報告しました。10月9日に開催した第2回研究会では、合原小学校(児童数30名)、不破中学校(生徒数524名)を訪問し、授業参観を行った後、児童生徒との意見交流会を開催しました。

児童生徒の“生”の声

合原小学校児童(5・6年生、13名)との意見交流会



出された意見

- 「異学年との交流ができる」
- 「みんなの名前が分かる」
- 「先生が丁寧に勉強を教えてくれる」
- 「いろいろな人の意見を聞きたい」
- 「思いっきりドッジボールがしたい」

他の小学校と一緒に活動(交流)することについて

「中学校に入学する前に友達ができ、いろいろな人の考え方にも触れることができるから交流したい」
※児童全員が「交流したい」と回答



中学校への進学について

「中学校に行ったら友達が増えて、これまでできなかったことができるようになる」
「学習面や大勢の前で話すこと、他校からきた生徒と仲良くできるかが心配」



不破中学校生徒(生徒会役員など8名)との意見交流会



他市町で行われている学校の統合について

「いろいろな地域の仲間と出会うことができる。(コミュニケーションがとれる)」
賛成と回答した生徒の中には…
「通学距離が延び、不審者対応が必要になる」
「母校がなくなることの喪失感」についても言及あり

小規模の小学校から多人数の中学校入学時の戸惑いについて

「同級生の多さにビックリした」
「自分から話しかけたり、相手から話しかけてもらったりしたことで溶け込むことができた」
「同じ小学校出身で仲間づくりがうまくできていない人も感じた」



町内に中学校が2校あることについて

「2校あることで部活動など、あらゆる面で競い合うことができるから賛成」



※多くの生徒が2校あることに「賛成」と回答

おわりに

第2回あり方研究会では、一部の児童生徒ではありますが、子どもたちの“生”の声、本音の部分に触れることができました。研究会では、今回の意見も踏まえながら、引き続き、将来の垂井町の子どもたちにとって、どういう教育環境が望ましいのか、保護者のみなさんや町民のみなさんがどう望んでおられるのかを足場として、研究に取り組んでいきます。研究会の開催状況などは、広報たるいやホームページにより情報発信を行っていきます。



児童生徒にとって よりよい教育環境を維持していくために

垂井町立小中学校あり方研究会を開催

問 学校教育課 ☎22-1153

はじめに…

垂井町教育委員会では、小中学校の児童生徒数の推移(減少)を踏まえ、小中学校の形態、学校施設の配置など、持続可能な児童生徒にとって、よりよい教育環境を維持していくために必要となる事項の調査研究を行うため、今年度、あり方研究会を設置しました。

研究会委員は、学識経験者として、岐阜大学教育学部教育学研究科特任教授で研究会会長の原尚さん、岐阜聖徳学園大学教職教育センター次長で同会副会長の寺田圭子さん、岐阜協立大学経済学部准教授の藤井えりのさん、教育委員会が認める者として、府中地区まちづくり協議会長、栗原地区まちづくり協議会長、町内小中学校長の14名で構成しています。

教育環境を取り巻く状況

垂井町の児童生徒数は、多くの自治体と同様に今後も減少していくことが見込まれています。本年5月の垂井町の小中学校の児童生徒数は1,839人、2036年には1,091人となり、約4割が減少すると推計しています。また、複式学級(2つの学年を1つのクラスに編制する学級)や、単式学級(通常の同一学年の子どもで編制された学級。1学年1クラス)が増加すると予想しています。教育施設(校舎・体育館など)においては、昭和40年代から50年代にかけて建設されたものが多く、施設の老朽化が進み、今後、計画的に改修や建替が必要となってきます。

町内小中学校の児童生徒数の推移

